

第8回 杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会会議録

会 議 名	第8回杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会
日 時	令和元年5月16日（木）午後1時30分～午後3時
場 所	富士見丘中学校体育館
出 席 者	懇談会委員14名（欠席10名）
傍 聴 者	13名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員・事務局・設計事業者の紹介 3 これまでの検討経過について 4 プロポーザル選定における企画提案について 5 今後の進め方について 6 閉会
資 料	<p>資料1 杉並区立富士見丘小・中学校改築検討懇談会委員名簿</p> <p>資料2 これまでの検討経過について</p> <p>資料3 杉並区立富士見丘小学校外2施設改築等工事に伴う基本設計及び実施設計業務公募型プロポーザル選定結果</p> <p>資料4 杉並区立富士見丘小学校外2施設改築等工事に伴う基本設計及び実施設計業務 公募型プロポーザルにおける企画提案について</p> <p>資料5 今後の進め方（予定）</p>

進行役	<p>では、定刻になりました。本日は第8回富士見丘小・中学校改築検討懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。昨年12月以来5カ月ぶりの懇談会となります。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>会の終わりは、大体15時程度を目安にして進めさせていただきたいと思えます。どうぞご協力をよろしく願いいたします。</p> <p>まずは、担当部長よりご挨拶がございます。</p>
学校整備担当部長	<p>皆さん、こんにちは。学校整備担当部長の中村でございます。新年度を迎えました。今年度もよろしく願いいたします。</p> <p>先ほど校長からもお話がございましたとおり、5カ月ぶりの懇談会の開催ということで、年度も変わりましたが、今年には特に時代も変わり、元号も平成から令</p>

	<p>和となりました。またひとつ心を新たに、新しい学校づくりに臨んでいきたいと思っております。</p> <p>この年度末、子ども教育委員会の管理職は卒業式の祝辞の代読ということで各小・中学校にお伺いするのですが、中学校は、当校富士見丘中学校にお邪魔して、卒業生の皆さんの前で新しい学校づくりが始まっているというお話をさせていただきました。</p> <p>ちょうどこの3月に巣立った子どもたちが22歳になったときに、この富士見丘小・中学校が新しく生まれ変わって竣工する予定でございます。大いに期待をしてほしい、そのときには学校のサポーターになってくれ、というようなスピーチを卒業生に申し上げました。</p> <p>また、小学校は、荻窪にあります桃井第二小学校という新品の小学校に伺いました。何とか3月に竣工が間に合いました、6年生を新しい体育館から卒業させることができました。卒業生から、新しい学校をつくってくれてありがとうございますというご挨拶をいただきまして、本当に感激しました。</p> <p>今年の桃二の6年生は、ちょうど入れ違いに校舎ができあがりましてから新しい学校を経験できませんでした。にもかかわらず、新しい学校をありがとうございますと卒業生の何人かに言われまして、本当に感激しました。子どもってすごいなという思いがしています。</p> <p>話は変わりますが、今日は後ろにパネルも用意してございます。後ほど紹介があると思いますけれども、改築基本計画の具体化に向けて、プロポーザル選定という、設計業務を担っていただく事業者の選定をこの間行ってまいりました。非常に意欲のある、質の高いご提案をたくさんいただいたと思っている次第でございます。ご参加いただきました事業者の方々には本当に頭の下がる思いです。ありがとうございます。</p> <p>その結果、選定された設計事業者の方に本日はお越しいただきありがとうございます。その力をお借りして、改築基本計画で定めた目標の実現、素晴らしい学校づくりにつながるように教育委員会としても全力で取り組んでまいりたいと思っております。</p> <p>この富士見丘小・中学校の改築事業というのは、令和元年度も区の中で最も重要な事業であり、少し難しい言葉で「中央進行管理事業」と言います。これは区長が直々にその進捗をチェックして、しっかり進んでいるかどうかということを確認する教育委員会の唯一の事業になっています。皆さんと一緒に、しっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、今年度もぜひひとつよろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上です。</p>
進行役	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、配付資料の確認等を事務局からお願いいたします。</p>
学校整備課長	<p>皆さんこんにちは。学校整備課長の渡邊です。引き続き令和元年度もよろしくお願いいたします。</p>

	<p>私のほうからは配付資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(配布資料の確認)</p> <p>以上5点ございますので、確認の上、不測のものがあればお申し出いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は体育館を開催場所とさせていただいております。かわら版などでもお知らせしましたとおりプロポーザル選定の結今回8社の事業者から応募をいただいて、そのうちの5社それぞれの提案の概略をパネル化したものを表示しております。懇談会の前に見られた方もいらっしゃると思いますが、閉会後も少し時間をとりますので、見ていただいて、今後の参考にしていただければと思います。このことについては事業者様からもご協力いただきましたので、改めて御礼申し上げます。</p> <p>ただし、内容について撮影はご遠慮いただくことになっておりますので、申し訳ありませんがご協力をお願いいたします。</p> <p>毎回そうではございますが、本懇談会は傍聴可ということで、本日も多くの方においでいただいております。あくまでも懇談会の中で発言できるのは委員のみということで、傍聴者の方はご発言はご遠慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上です。</p>
進行役	<p>それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。</p> <p>まず次第の2といたしまして委員等の紹介でございますが、資料1として委員名簿が配付されております。新年度になりまして、一部の委員及び事務局のメンバーが代わっておりますので、今回代わられた委員の方から一言自己紹介をいただければと思います。</p> <p>(委員の自己紹介)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(欠席者についての連絡)</p> <p>では、続いて事務局の方のご紹介をお願いいたします。</p> <p>(事務局の自己紹介)</p>
学校整備課長	<p>先ほど部長の挨拶でもございました今回のプロポーザル選定の結果、事業者も決まっております。山下設計様という設計事業者で、今回プレゼンテーションをしていただきます。</p> <p>山下設計様、自己紹介をお願いします。</p> <p>(山下設計の自己紹介)</p>
設計事業者	<p>私ども山下設計は、社是としてクライアントの誠実というのを行動理念としております。今回皆様が築き上げてこられた検討や意見等を踏まえて、誠意をもって業務に携らせていただきたいと思いますと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
進行役	<p>では、続きまして次第の3として、これまでの経過等について事務局から説明をお願いいたします。</p>

教育施設計画
推進担当係長

それでは、資料2をご覧いただきたいと思います。委員で代わられた方もいらっしやいますので、今までの経緯を簡単にまとめてございます。

昨年度4月にこの懇談会を立ち上げまして、6回ほど議論を積み重ね、10月ごろに改築の基本計画の中間のまとめをして、説明会の開催等をさせていただきました。それを受けまして、昨年末に改築基本計画を策定しました。

昨年12月に第7回の懇談会を行って以降でございますが、1月に改築かわら版第3号ということで策定した基本計画を地域、保護者の方々にお知らせをしてきたところでございます。

それとあわせまして、先ほどご説明がありましたとおり、設計事業者の公募型のプロポーザルを1月から4月にかけて行ってきて、選定・契約をして本日に至るというところでございます。

続きまして資料3、この間行ってまいりました公募型プロポーザルの状況についてご報告いたします。

今回の業務の発注対象といたしましては、この小学校・中学校の改築工事、それから併設する学童クラブ、おのおののグラウンド、多目的広場の設計についても含めた、一括した基本設計及び実施設計の業務でございます。

1月に公募を開始いたしまして1カ月ほど募集期間をとって、最終的には8事業者からご提案をいただいたという状況でございました。

その後、書類審査という形で第一次審査を行いまして、上位5社の方々が第二次審査に進まれました。第二次審査ではプレゼンテーション、それからヒアリング審査を行い、最終的には先ほどご挨拶いただいた山下設計さんを4月10日の選定委員会で選定したという状況でございます。

2ページ目に選定委員会の構成、それから審査の結果を記載しています。この懇談会の委員をお願いしています高見澤先生には今回の選定委員会で会長を務めていただいて、建築会の松枝代表ほか中村部長、それから元富士見丘中学校の校長先生でいらっしゃる熊耳先生に加わっていただいて、選定委員会を開催いたしました。

審査の結果についてはその表にあるとおり、皆さんかなり高い水準の提案で、おおむね70%以上の得点を獲得されており、最終的には得点の一番高かった山下設計さん、この資料でいうA社を選定したところでございます。

なお、3ページに旧選定委員会の構成等を書いています。今回の選定委員会は当初6名で行いましたが、区のプロポーザル選定委員会条例というものがございまして、そちらで、区の職員ではない外部の委員を半数以上入れて選定するという決まりでございました。熊耳先生を富士見丘中学校の元校長ということで外部委員として入れていましたが、済美教育センターで教育相談員を今もやられていたということで、最終的には外部委員とみなせないのではないかということになりまして、一度選定結果を取り消して再度4名の選定委員会で選定し直したという経緯がありましたが、結果としてはA社で変わらなかったという選定経過でございました。

	<p>この間の経過としては以上でございます。</p>
進行役	<p>以上、ご説明いただきました。ご意見、ご質問等ありますか。</p> <p>それでは次第の4、公募型プロポーザルにおける企画提案についてご説明をお願いいたします。</p>
教育施設計画 推進担当係長	<p>これから山下設計さんから企画提案の概要についてご説明させていただきますが、その前に少し補足させていただきたいと思います。</p> <p>今回行ったのがプロポーザルという方式です。通常、設計業務というのは入札で、金額の一番安いところに発注するのが区の原則でございますが、こういった専門的なものと、そのようなことだけではなく、いい設計ができるのかどうか、担えるのかどうかという点から、総合的に事業者の方を選定し、いい設計をしていただくという趣旨から、プロポーザル方式というものを今回行わせていただきました。</p> <p>設計業務に対して取組の体制、プロジェクトに対する考え方、それから技術提案などを受け、そういったものを総合的に評価して、設計委託にふさわしい相手方を選ぶというのがプロポーザルでございます。</p> <p>それに対してよく混同されるものに、いわゆるコンペというものがございます。これは設計競技と言われるもので、設計案を募ってどれがいいかという方式でありますけれども、それとは違うということをご理解いただきたいと思います。</p> <p>コンペでは、設計案を選んで、その提案者を設計者に指名するという方式ですが、そのように案を選ぶのではなく、あくまでしっかり担える事業者さんを選ぶということで、今回はプロポーザル方式で選ばせていただいたということになります。</p> <p>したがって、これから企画提案の内容をご説明いただきますが、現時点ではその案で決まったということではございません。これからさらに区や皆さんのご意見をいただいきながら、調整をして、意見や要望等も受け入れていただいて、設計を進めていくのが今回の趣旨でございますので、これからプレゼンいただくものはもう決まったものではないということだけ、ご理解いただきたいと思います。</p> <p>それでは、お願いします。</p>
設計事業者	<p>それでは、私から提案したプロポーザル案についてご説明いたします。</p> <p>まず前提条件として、今回の建てかえ計画で検討された配置案は4案、区道をつけかえて小学校と中学校を一体化させたA及びB案、区道はそのままにして、それぞれ独立した小学校と中学校とするC案とC'案がありました。</p> <p>これらに関しては、この改築検討懇談会で意見交換を行った上でC'案で今後の検討を進めるというお話になっているということで、まず私どもはプロポーザルの提案を考える際に、高井戸小学校を含めた3校での小中一貫教育をお考えのことから、富士見丘小学校と中学校をそれぞれ建てかえるという条件である先ほどの4案の中で、C案とC'案について配置上の比較検討を行ってみました。</p> <p>それがこちらの図となります。左側が6回目の改築検討懇談会でも提示されて</p>

いるC'案。右側が、中学校西側と南側に一続きに配置して、北東にまとまったグラウンドを確保した案となっております。皆様をご存じの、C案に近い配置形状のものだと思われます。

この図は当時の日陰のシミュレーションの状況も重ね合わせた図となっておりますが、今回敷地の北側の区営住宅への日陰の影響に関しては、建物幅が大きいC'案のほうが若干大きくなりますが、C'案は中学校をコンパクトな平面形状としておりますので、小学校と近接した配置になります。結果、建物内の移動距離が短くなるというメリットがあります。

一方、C案に近い右側の配置では、中学校の教室が東側に伸びておりますので、小学校側への移動距離がかなり長くなるという、使い勝手上好ましくない条件となっております。また、右側の案は校庭の南側に校舎を配置しているという関係上、冬場に霜がおりた場合、日中でも日陰になったままで校庭が乾きづらくて使用できない状況になることも予想されます。

これらの点を考えても、中学校をコンパクトに西側に配置するC'案に計画の優位性があると思われます。さまざまな配置の検討も行いましたが、この結果を踏まえて私どもは今回のプロポーザルにおいては、C'案の改善提案という形でご提案させていただいております。

こちらが、南側の上空より俯瞰した施設のイメージとなります。西側敷地に、小学校校舎と多目的広場としての小学校の校庭。東側敷地に、中学校校舎と校庭をそれぞれ配置しております。小学校と中学校を区道上の渡り廊下でつないでいます。配置上はC'案とおおむね同形状です。

では、具体的に改善提案のご説明をさせていただきます。

「小学校・中学校の教育環境の向上」ということで、私どもはこちらに掲げます教育環境の向上のために3つのポイントを挙げました。

Aとして「明確な機能別・用途別ゾーニング」。Bとして「普通教室の環境づくりを最優先に」。Cとしては「専門各教科が連携する環境」です。

まずは、最優先項目であるBの普通教室の環境づくりについてご説明いたします。

こちらは、第6回目の改築検討懇談会で配置計画とともに提示された平面図を用途ごとに色分けしたゾーニング図となります。薄い緑色が普通教室、黄色が特別教室、濃い緑色が少人数教室や多目的室、グレーが共用部分という色分けになっています。この案では、小学校の普通教室は多目的広場側の西側に配置されております。中学校では校庭側の東向きに配置されているという状況です。

中学校の普通教室を東向きに配置するケースは条件によってはあり得ますが、小学校の西向きの普通教室は、夏場の西日の影響を考えると日射負荷の面からも好ましくない配置と考えられます。

都市公園に隣接した立地特性を生かすという点からは、視界の開けた西側へ配置されるのは1つの考え方としてはありますが、普通教室の環境を考えたときには、眺望よりは室内環境を快適にすることが重要だと私どもは考えております。

こちらの図は先ほどと同じように用途ごとに色分けした、私どもが提案した計画のゾーニング図となります。私どもは、まず南側からの自然採光が学習環境と省エネルギー、ランニングコストの観点からすぐれていると考えまして、小・中の普通教室を全て南に向ける計画としました。この点が、C'案の改善提案の1つです。

こちらが具体的な平面図、2階となりますが、小学校は普通教室、1学年3室と近接して個別教室や多目的室を配置しております。学年ごとのまとまりをつくり、建物内に光庭を配置することにより、全学年南側採光を行っています。

中学校は普通教室を1学年4室として、少人数教室を横並びに南側に配置しております。これで、安定した南側の自然採光を確保するという計画となっております。学年ごとに普通教室をまとめているので、学年の一体感や独立性が保てると考えております。

次に、小学校及び中学校を南北に、縦に切った断面をお示しします。こちらが小学校を南北に切った南北断面のイメージとなります。先ほど説明しましたように、建物内に光庭を配置して、全ての普通教室に南側から自然採光が可能な計画となっております。光庭からは安定した自然採光と、自然通風が確保できる学習環境となります。

こちらは、中学校の南北断面のイメージとなります。3学年を3層に配置し、全ての普通教室を高井戸公園側の南向きに計画しています。中学校も光庭を設けて、技術室や理科室などの特別教室への自然採光も行っております。

また、今回普通教室を全て南側に向けるという提案とともに、将来的な児童数・生徒数の増加に対応できる計画も検討しました。こちらの図にありますように、各学年のまとまりを崩さずに隣接する少人数教室や個別教室を改修することによって、各学年が1学級増えた場合でも対応できる計画提案とさせていただいております。

次に、教育環境の向上のための3つのポイントのうち、Aの「明確な機能別・用途別ゾーニング」についてご説明します。

こちらは、先ほども示しましたが各室を色分けしたゾーニング図になります。この図でも読み取っていただけたと思いますが、黄色で示した特別教室とオレンジで示したラーニングセンターやラーニングスペースのまとまりが、普通教室エリアと明確にゾーン分けされているのがおわかりになると思います。明確な機能別・用途別ゾーニングに関するメリットに関しては、後ほど防災対応、近隣対応に関する内容で詳しく説明させていただきます。

次に、Cの「専門各教科が連携する環境」の提案についてご説明します。

こちらは、提案の3階の平面図となります。小学校に関しては、図書室を核としたラーニングセンターを特別教室に隣接させて配置することにより、教科教育の授業のサポートがしやすい配置としており、興味が湧いたことをすぐ調べることができる教育環境になっています。

中学校は、普通教室と特別教室の間にラーニングスペースを配置して、多目的

な学習支援スペースとして位置づけています。この内容も、C' 案の改善提案としております。

今回小学校と中学校が共用する特別教室を計画するということになっておりますが、それがこの学校の特色で、特別教室への移動には小・中をつなぐ渡り廊下での移動が伴います。私どもの提案では渡り廊下の近くに小・中の交流の場所をつくって、学年を超えた合同の学習や作業を促せる空間をしつらえ、それらの体験を通して下級生への思いやりを育むという仕掛けをさせていただいております。

次に「立地特性を生かした学校づくりや周辺まちづくり」についてご説明いたします。

計画敷地は、狭隘な周辺道路や高井戸公園との連携などの課題があります。その立地特性を踏まえて、次の3点を重視した計画とします。

まずA、大規模災害時にも確実な機能維持として耐力壁を適切に配置して、地震のときの被害を最小限とした震災に強い救援所としての機能強化を図る予定でいます。

次にB、災害時に実際の応急活動を見据えた計画として、こちらの全体のゾーニング図で説明しますが、まず校庭への緊急車両の物資の搬入ルートを確認します。小学校の多目的広場は道路に接していないため、正門の脇から車両を入れる経路を確認します。

中学校の校庭でも同様の経路を確認し、小学校と中学校のアリーナは1階に計画し、災害時の避難場所として使用します。小学校のアリーナは、広域避難場所である高井戸公園との連携が行いやすい計画ともしています。

次にC、地域の交通安全性向上への貢献についてご説明します。小学校と中学校の間には区道がありまして、その区道を整備して児童や生徒が安全に通学できる通りをつくります。この通りを、私どもはスクールモールと呼びます。この通りは、杉並区立の第十小学校前のプロムナードのイメージで計画を進めたいと考えております。

交通の安全性を向上させるために、敷地の南側には小学校・中学校の正門、昇降口を置いて、それぞれ分けて登下校時の安全性も確保しています。また、計画しているスクールモールは、富士見ヶ丘駅から高井戸公園に向かうアプローチ道路としても位置づけて、富士見丘通りの混雑緩和にも役立てようと考えております。

この図は、小学校と中学校を東西に横断した断面のイメージとなります。中央部分がスクールモールとなります。管理エリアは1階に配置して、管理しやすい空間とするとともに、地域開放機能もこのモールに面して集約配置して、学校と地域を結ぶ計画としております。

小学校と中学校の共用施設もモール沿いに集約配置します。スクールモールは小・中の連携、あわせて学校と地域の連携・交流の軸として整備しようと考えています。

また、私どもはこの2階の平面図で示しますように、小学校・中学校ともに南側に普通教室エリア、次に特別教室エリア、そして体育館という明快なゾーニングを行っております。こちらの断面で示すように学童クラブやアリーナ、特別教室エリアなど、地域開放範囲によりセキュリティラインの設定も明快で、運用しやすい計画となっております。災害時に体育館を避難所として使用した場合、万が一長期化した場合でも機能区分も明快なので、学校の早期運用が再開できる計画となっております。

最後に、工事工程についてご説明いたします。今回の計画は、こちらで示しますように5つのフェーズによる長期の建てかえ計画となります。特に、安全性と周囲への影響を最小限にする対策を図ろうと考えております。

まず、フェーズ1の小学校建設です。中学校エリアと工事エリアを明確に区分して、工事車両と学校動線が一切交差しない計画としております。この図で示す青矢印が生徒動線、赤矢印が工事車両動線、赤丸がガードマンの配置位置となります。工事車両の出入り口は北側の1カ所に設けて、一元化した安全管理を行う計画です。万が一を考えて、小学校建設用のクレーンは中学校と反対側に設置するという計画です。

次に、フェーズ2の多目的広場建設です。生徒動線と工事車両動線は先ほどのフェーズ1でご説明しましたのと同じようにしまして、小学校新校舎の北側を利用して、多目的広場の整備を行います。状況によっては、小学校の新校舎の北側を後施工することも検討に入れます。

東京都との今後の協議によってですが、都立公園の一部を工事車両動線として使わせていただくことも視野に入れて協議をしていきたいと考えております。

次に、フェーズ3の既存中学校解体です。中学校の解体手順として、北側及び東側の建物を最後に壊すことで、その部分を防音壁として活用し、近隣への騒音の軽減を図ろうと考えています。あわせて、低騒音・低振動の工法の検討・採用を行います。解体期間としては余裕を持たせておりまして、富士見丘通りの幅員や交通量も考慮した搬出車両の運行計画調整も可能な計画としております。

次にフェーズ4、中学校建設です。これまでの工事と同様、小学校の動線と工事車両動線の分離を図ります。スクールモールは工事車両の進入を禁止するという考えです。中学校建設用のクレーンは小学校と反対側に設置するという考えです。将来校庭となる範囲を工事ヤードとして活用することで、解体時と同様に富士見丘通りの幅員と交通量に配慮した搬出入計画を立てやすい状況ですので、それを工事条件として計画を進めたいと考えております。

次にフェーズ5、中学校外構・周辺道路拡幅です。中学校の建設工事と外構工事は工事車両の出入り口を1カ所に限定し、兼用利用する想定としております。

以上が各段階での施工上の配慮点となりますが、こちらで示していますように、全体の工事工程、小学校の着工から中学校の運用開始まで約5年かかります。中学校の工事期間は約3年となっており、ある学年は一度も新しい校舎を使わずに卒業する状況となっておりますので、私どもは特に中学校建設に関しては必ず新

	<p>しい校舎が利用できるよう、今回の提案以外でも解体や工法による工期短縮の検討や、発注工夫のご提案を行いながら、可能な限り工期短縮の検討・協議をさせていただきたいと考えております。</p> <p>以上で、私どもの提案のご説明を終わります。ありがとうございました。</p>
進行役	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで、プロポーザルの選定委員をお務めいただきました高見澤先生からコメントをいただければと思います。</p> <p>高見澤先生、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>それでは簡略にですが経過と、感想はあくまで私個人のもので、選定委員会を代表してということではございませんが、感想めいたことをお話ししたいと思います。</p> <p>最初遅れてしまいました。委員の皆様はご覧になりましたか。場合によっては、私は簡単に話しますので、全体の流れがよければ5分か10分見ていただいて、またご意見をいただきたい。そんなに長い時間でもなくてもいいですが。</p>
進行役	<p>では、今2時10分ですので、2時20分ぐらいまで。</p>
委員	<p>僕が最初に短いご紹介をします。</p> <p>先ほどの資料3で言うと、選定結果を裏返した2ページ目を見ていただきながらということでお話しいたします。</p> <p>事務局からもご紹介がありましたように、8つの設計事務所からの応募がありました。それを一次審査、二次審査という2段階で選定委員会を開催しました。</p> <p>一次審査と二次審査の大きな違いは、ちょっとつらいですが、一次審査で全体からある順位づけの中で事業者さんを絞り込むということです。出している資料は一次審査と全く同じ範囲のもので、今日のようにプレゼンテーションをスライドに映していただいて、審査委員から質問し、それに対して受け答えていただく二次審査を行いました。</p> <p>ですので、二次審査に進んだ5社の中で、より詳細に提案を我々が拝見すると同時に、今日もご説明いただいた担当者に来ていただいて、今後事務局や学校の皆さんは長いお付き合いになるわけですから、質疑等の中から、どういう感じの事務所かというあたりに対する感触も、我々は確かめさせていただいたという面がございます。</p> <p>とはいえ、二次審査に来てくださった5社は、このような学校建築について非常に経験も豊富で、今まであまりやることがないという会社ではありませんので、いずれもきわめて高い水準の提案でございました。</p> <p>概略で言えば、かなり斬新なアイデアを軸に組み立てられていた事務所が資料で言うD社とG社、それからいろいろな課題に対して目を配られて提案されたのがA社、B社、C社。傾向としてはそういう斬新なアイデアが柱の事務所と、いろいろなことに目配りされた事務所に半分ずつ分かれた気がいたしましたが、思い切ったアイデアで、きっとすごくおもしろい、生徒や児童にしても大変印象に残る学業生活ができるのではと思わせるものもありました。</p>

	<p>それらの提案は委員によってそれぞれ考えられたわけで、つらいところがあったと思いますが、各委員の持ち点を平等にし、何点満点という中で採点をさせていただいて、結果として全部を合計したところ、言葉が適切かわかりませんが、今日お見えのA社、すなわち山下設計さんの提案がバランスがいいということで、結果的に選ばれたということでございます。</p> <p>なお補足して言いますが、結果を事務局がパソコン上で集計して示されるまで、我々はその5社や8社が何という会社かということは全く知らない、ブラインドで審査しております。開示された結果を見て、選ばれた事務所や先ほど申し上げた傾向にうなずいた次第でございます。</p> <p>もちろん山下設計さんの提案でもより特徴づけというか、児童・生徒がすばらしい空間を卒業したと思わせるような、いろいろな魅力づけのようなこともご努力願えると思いますし、短い時間とは言え、これから設計を詰めていく過程でより良いものになると思います。</p> <p>事務局からもありましたように、プロポーザル方式はこの協議会で定めた基本的なビジョンをどう受け取って形にしていくかということと、それから望まれる事務所の体制や意欲を評価しているものでありますから、ご提案そのものが全て決まったわけではありません。</p> <p>これから事務局や学校の教職員の皆さん、場合によっては児童生徒さんたちにも何かの形で、設計のプロセスで意見を聞くということと変ですが、こういうふうに進むものだということを示していただける機会も持てると、とてもいいのではないかと思います。</p> <p>そんなことで、今後の詰めの中でさらによいものになることを、審査員一同として期待して審査したということでございます。</p>
進行役	どうしますか、見る時間をとりますか。それとも終わった後でいいですか。
学校整備課長	終わった後、多少お時間はとっています。
進行役	では、改めてそのときに。 ただいまの先生からのご説明・コメントを踏まえて、ご意見・ご質問等があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。
委員	選定委員のことですが、旧選定委員会の方で熊耳先生が外部ではないということで、新選定委員会は6人から4人になりました。6人のままでメンバーを変えるのではなく、全体数を減らしたのは何か意味があるのですか。
学校整備課長	<p>最初は6名、外部3人、内部3人ということでやりました。当然書類も6人の委員に見ていただいて、6人の委員の前で二次に進んだ5つの事業者さんから説明を受け、点数をつけました。</p> <p>その後、熊耳先生については扱いが内部ではないかということになったので、同じ2対2にしなくてはならなくなりました。違う委員を入れて、同じくもう一度6人でやり直すという選択肢もあったのですが、そうするともう一度事業者においでいただいてプレゼンをするということになるので、そうするとその辺はい</p>

	<p>かがかというところがございました。我々としては最初にあったプレゼンの内容をもう1回やるとなるとまた中身が変わる、質問の内容が変わって受け答えが変わるということがあるので、そうすると困ってしまうということで、1回やったプレゼンなどの内容そのものに瑕疵があったということではないので、人数は少なくなるけれどもこの4人で改めて点数を集計し直しました。もう一度呼んでやり直すという方法をとらずに、高見澤会長以下4人の委員の中で合意をしていただいて、前の点数と変わりはないことを確認していただき、集計をやり直したという経過です。</p>
進行役	<p>よろしいですか。</p>
委員	<p>点数をつけて、どなたがどこの会社に何点みたいな配点をするわけですね。ですから、田中さんと大竹さんがどこに何点つけていたかということなわけですね。だから、誰を減らすかといった時点で、そこに何か恣意的なものがあったということではなしに、一旦点数をつけたのに、その後人が減って点数を計算し直したというのは、どなたがどこに何点入れていたということとはわからない状態で2人が減らされたという解釈でいいでしょうか。</p>
学校整備課長	<p>最初につけた6人の点数は、誰が何点入れたかはわからず、合計点だけがわかっていました。6人を4人にするとき、誰を除くかでまた点数や順位が変わってもまずいので内部でシミュレーションした結果、どの委員が抜けても結果として順位そのものは変わりませんでした。</p> <p>点数は変わりますけれども、順位が変わらないことを踏まえて誰を残すかということですが、熊耳先生は元校長先生ということがありますので、当然教育の立場の先生として呼び出したのでこれは残す。</p> <p>あと、所管の部長は必ず入れるという内規があったものですから、中村を残しました。そうすると必然的に外部のお2人に加えて、内部としては熊耳先生と中村部長が残ったというところで点数をもう一度集計したら、同じ結果でございました。</p> <p>ほかの人だったらどうなるかというのも、我々でチェックした結果、点数は増減がありますけれども、順位には影響がなかったということで、それをご報告申し上げた上で確認をとっていただいて、この結果を審査委員会の結果にしたという経緯です。</p>
進行役	<p>よろしいですか。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>配置図のところで、理解できない部分が2点ほどあるのでよろしいでしょうか。</p> <p>渡り廊下は3階にあります。2階部分にも3階部分にも「ラーニングセンター（図書室）」とあるのは、2フロアにわたって小学校側の校舎に図書室が入っているのですか。</p>
設計事業者	<p>小学校の、今この図面でいう上のほう、2階と3階、同じように図書室を核にラーニングセンターを配置しております。</p>

委員	それは、吹き抜けみたいにでしょうか。
設計事業者	いえ。連携ができるように内部階段でつなげてはいますが、提案としては大きな吹き抜けがあるという状態では今はないです。基本的に小学校主体の図書館と中学校主体の図書館みたいな形で、それを内部階段でつないで2フロアで連携できる。場合によっては部分的に吹き抜けを設けて視線をつなげるとか、いろいろなやり方はあると思いますが、今のご提案の中では……。
委員	2フロアにわたって図書室があるというイメージでしょうか。
設計事業者	そうです。
委員	内部階段で行ったり来たりはできるようになっている。
設計事業者	内部階段での提案を行っています。
委員	<p>中学校側の校舎にも学校図書館、小学校の校舎側にも学校図書館という、両方に1つずつ配置することが面積的に難しいのでしょうかというのが1点です。中学生が利用しようと思ったときに、わざわざ渡り廊下を歩いて小学校側の図書館に行かなければいけないのは、非常に足が遠のくと思われます。</p> <p>今、本校も図書館が本校舎と別校舎にあるものですから、どうしても本校舎の4階で過ごしている1年生の利用率がとても低いです。そういうことを考えると、かなり狭いところに両方校舎を建てようと思っているので、1個1個に学校図書館を設けるのは厳しいとは思いますが、検討していただきたいと思います。</p> <p>あと、この配置図を見たときに中学校側にはPTAと支援本部の部屋が隣接して2階部分にあります。小学校側のPTA室はこの開放会議室のある1階部分ということでしょうか。18番の断面図の中に、小学校側の「開放会議」の隣に「PTA」と書いています。それはPTA室という意味の「PTA」ですか。</p>
設計事業者	そうですね。小学校側の1階のそれはPTA室です。
委員	小学校側はPTA室と支援本部は1階にあるというイメージでしょうか。
設計事業者	はい。
委員	わかりました。中学校側で共用なのかと、心配の声があったものですから。
学校整備担当部長	別々ですね。
委員	別々ですね。わかりました。
設計事業者	<p>あと、最初のご質問で図書館を小学校側の校舎に建てると中学生の利用率が下がるというお話ですが、今回特別教室も含めて兼用化をして、限られた面積の中でいかに効率のよい、機能的なものをつくるかという中での1つの回答として出させていただきます。</p> <p>当然登下校の動線上に図書館があったほうが利用率は上がりますし、図書館の場所は利用率にかなり影響してくると感じてはおりますけれども、一方で調べもの学習やそういったものを主体に図書館を活用していただけないかという1つの提案として、特別教室の近くに配置しております。そういうきっかけをつくれば、</p>

	放課後の利用率は別ですが、図書館を使う機会はかなり増えてくるのではないかと という、1つのご提案です。
委員	中学校側に、各フロアに「ラーニングスペース」という名前の場所があります。 この「ラーニングスペース」というのはどういうイメージで考えていますか。
設計事業者	そこは1年生から3年生をフロアごとに分けていて、ラーニングスペースとい っても自習スペースやたまり場的な空間でもいいのかなと思っています。学びは 全ていろいろな行動から生まれるだろうと考えていまして、そこは多目的に使う 空間として位置づけています。
委員	別に特に、そこに例えば簡易的な本棚があるとか、そういうイメージではない ということでしょうか。
設計事業者	そういうケースもありますので、それも視野に入れております。ただ、管理上 の問題とかいろいろありますので、協議させていただいた上でしつらえたいと思 っています。
進行役	そのほか、いかがですか。
委員	工事工程での質問ですが、富士見丘通りに出た車両というのは、北側を利用す るのか南側を利用するのか、その辺をお伺いしたいと思います。出入りにおいて 北側から入って行くのか、南側から入って行くのかということです。
設計事業者	それは例えば工事車両の搬出先を考慮した際に、その前面道路だけの状況では なく、その先の道路の状況も勘案して北側を利用したり南側を利用したりとい う考えで、今の時点では限定的にどちらに行くという決めつけ方はしていません。 もう少し広範囲で、車両動線を検討しながら決めていきたいと思っています。
委員	私は商店街の人間なものですから、時間帯に応じて非常に通りが利用しづら くなるのは困る人間もいるということで、ご質問させていただきました。
進行役	そのほか、いかがでしょう。
学校整備担 当部長	ぜひ何でもどうぞ、聞いてください。
進行役	よろしいですか。
委員	岩田です。今日初めて参加していろいろかわら版などを見ていました。図面を 見ると13ページに「プールピット」と書いていますが、基本児童と生徒が同じプ ールに入るという認識でよろしいですか。プールは小学生と中学生が一緒に、1 つのプールを使うのでしょうか。
設計事業者	今回プレゼンテーションで提示した資料の中にはプールが入った平面図はあり ませんが、中学校、小学校おのおのにプール、フロアでいくと4階に該当する位 置に計画は考えております。
委員	4階……。
設計事業者	これはプレゼンテーションで映したシートではなく、質問が出たときにお出し しようと思って入れておいた図面です。4階の平面図はここにありますが、中学 校はこちら、小学校はこちらということです。

委員	実際中学校は4階になるのですか。
設計事業者	はい。
委員	小学校が……。
設計事業者	小学校は3階建てですので、屋上という考え方です。
委員	そのプールの下には何が来るのでしょうか。
設計事業者	「プールピット」と言う層がありまして、その部分に配管スペースというものがが必要です。
委員	アリーナの上にプールが来るという認識ではないのですか。
設計事業者	中学校はアリーナの上にあります。
委員	この上にプールが来るという感じですね。
設計事業者	はい、そうです。こういう形態にはなかなかしづらいのですが。
委員	違う小学校で上にあるプールを知っているのでイメージはつくのですが、いろいろ思うところもあります。大震災などが実際に来たときに貯水槽も兼ねているのかわかりませんが、それがどうなのだろうとか、あと気候の寒暖差の関係もあるので、下に来る体育館の管理というか、自分なりにいろいろ経験してきているので、果たしてここで体育館の上にプールというところの……。
設計事業者	<p>構造的な合理性を考えるとあまり望ましくないとは思いますが、限られた敷地の中でプールを日の当たらない下に持って来るということは、基本的には室内プールにしない限りはないと思います。そうなった場合利用頻度から考えて、構造は若干無理はしますが屋上に乗せて、直射光が当たる夏場に使いやすいプールという考え方をしております。</p> <p>敷地に余裕があれば別で建てるというのも考え方としてはありますが、今回はそういう計画ではありません。</p>
進行役	そのほかいかがですか。よろしいですか。
委員	南側から光を入れるという工夫をされて、これで教室の数と広さは最初の計画のとおりであるということでしょうか。
設計事業者	教室1部屋は小学校が8×8の64㎡、中学校が8×9の72㎡という設定でプランニングしています。
委員	当初の広さのとおりによりながら光を入れるスペースをつくった。ほかに光庭をつくるためになくなった部分がありますか。
設計事業者	いろいろな部屋をぎりぎりまで詰めたり、兼用したりという工夫はありますし、アウトライン的には少し太らせてしまったという部分もあるかと思います。光庭を幾つもとるという考え方をするために、そういった影響を受けた部分は多からずあります。
進行役	よろしいでしょうか。
委員	学童クラブですが、小学校の一番北側になると思います。この図面からはわからなかったのですが3階建てではないと思うので、後ろがアリーナということに

	<p>なると日当たりなどはどうなのかとすごく心配です。後ろは高い建物ではないですか。一番北側で、その後ろに大きい校舎がありますが、同じ高さではないですね。</p>
設計事業者	<p>私どもの提案としては、学童クラブは1階のレベルに配置しています。</p>
委員	<p>だから日が入りにくいのではないかと気になったのですが、そういったところはどうか。</p>
設計事業者	<p>運用の時間帯もいろいろ考え方としてあると思うのですが、やはり小学校の開いている時間分けとしてはあまり中に組み込めない状況だったと思われます。</p> <p>ただ工夫の1つとして、考え方をいろいろ整理させていただいて、昇降口の位置を変えたりして南側に持って来るという考え方はスペース的にはできると思います。けれども、やはりそれは皆様のいろいろな意見の重みづけとか、いろいろ調整しながら決めていきたいと思いますが、今回は高さをあまり高くできないという状況ですし、独立性を保つために北側、できれば傾斜地もありますのでうまく段差を使いながら、そういった工夫を積み上げながら、1つのご要望として検討したいと思います。</p>
委員	<p>学校があるときは夕方だけなので、そんなに気にならないと思いますが、春休みや夏休みなど長期の休みのときは1日学童クラブで過ごす子も結構多いですし、受け入れ人数も増えてきていますので、その辺のところも加味していただければと思います。</p>
進行役	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、続きまして次第の5「今後の進め方について」、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>それでは資料の5、「今後の進め方(予定)について」をお開きいただきたいと思います。</p> <p>昨年度改築基本計画で定めましたとおり、今年度と来年度の2カ年で設計を進めてまいります。2カ年の大きな分けといたしましては、今年度末まで基本設計、来年度は実施設計ということで進めてまいります。お配りしたのは、今年度の基本設計の中での大まかな予定でございます。</p> <p>まずこの後5月、6月から夏場ぐらいまでにかけて基本設計の条件等の整理。これについては、去年改築基本計画で大まかな規模等はまとめておりますので、それをベースにして再確認をしていくということです。</p> <p>それから6月から9月ごろにかけて、全体の工程やゾーニング、アプローチ、どこに門をつけるか、昇降口をつけるかとかそういったこと。それから平面計画、動線計画、立面計画等を定めまして、それが終われば大まかな配置や平面は決まってくるというところで、それを受けて9月ごろに、第9回の改築検討懇談会で今日のご意見をいただいたものをさらに精査いたしまして、もう1回案を示させていただきますようお願いしております。</p>

	<p>10月ごろに大規模開発事業に係る説明会がございまして、こちらは周辺にお住いの方を対象とした説明会でございます。</p> <p>こちらについては、今回規模が1万平方メートルを超える敷地面積でございますので、こういった建物を建てるかというよりはここを2つの一体的な土地として、小・中学校を改築していくという、そもそもの土地の利用の仕方とか、そのようなところまでを含めての説明会ということになってございます。ですので、建物についてはまだ粗々のもので説明させていただくという形を予定してございます。</p> <p>それを受けまして9月、10月あたりで改築基本方針の検討③ということで詳細の検討、環境への配慮、防災計画、セキュリティ、バリアフリー、構造、機械・電気設備、色彩、外観等の検討を進めまして、再度、11月ごろに第10回の改築検討懇談会でさらにもう少しそういった詳細面を含めて、皆様にご確認いただく機会を設けたいと思っております。</p> <p>それを受けまして、年明け1月ごろに大規模建築物に係る説明会がございまして、こちらもちづくり条例に基づく説明会がございまして、今度は建物の概要がかなり決まっておりますので、その建物の建築に関してご意見を聞くということが主になりますので、周りの方にとってはどれだけ日影が落ちるのかとか、高さをもう少し抑えてくれとか、そういった意見が出る場合が多い。そんな説明会を予定してございます。</p> <p>そしてそういった説明会を受けて基本設計がおおむね固まりましたら、今年度末3月ごろに第11回の改築検討懇談会ということで、最終的にこういった基本設計になったと皆様にご報告の機会を設けたいと思っております。</p> <p>なお、本改築検討懇談会については基本設計までということで予定しておりますので、今年度いっぱい、3月の11回ぐらいを最後にとということで考えています。</p>
設計事業者	<p>1点だけ。この資料のやや上に「※」で「施設管理者等へのヒアリング」と書いている欄があります。私どもは9月ごろまでにおおむねの計画を立案するという流れになっております。なおかつ学校さんのスケジュールでいくと夏休みというのは大きな部分で、その前後どちらでやるかで大きくスケジュールが変わってきますので、可能であれば私も夏休み前に一度ヒアリングを行わせていただいで、その内容をある程度整理・咀嚼して夏休み明けを向かえたいという状況で、ちょっとこぼしたものを夏休み明けにヒアリングをさせていただければという、私ども、勝手なイメージを描いておりますが、もしよろしければご協力いただきたいと思っております。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>説明は以上でございます。</p>
進行役	<p>では、何かご質問・ご意見等ありますか。</p>
委員	<p>副校長の三浦です。基本設計のお話はすごく、光が入るととても温かい校舎になると思います。</p> <p>私は美術の教員でありまして、進め方の中で、可能であればどこかのスペース</p>

	<p>で生徒の色合いや個性を生かすスペースが、造形はもう無理だということはわかっていますので、そういうスペースがもしできれば、と思っています。コンクールというわけではありませんが、以前にある鉄道会社の駅のコンテストがありまして、その外装のデザインのコンテストで中学生が多く応募して、実際に通った子がいたのですが、通らない子もすごく興味を持つことができました。</p> <p>ですからもし可能であれば、色合い等でそういった機会を生かせるものがあれば、すごくいいかなと思いました。よろしければ考えていただければと思います。</p>
設計事業者	よく参加型というところで、部分的な外装をやっていただくとかありますので、検討させていただければ。
委員	もしよろしければ。お願いします。
委員	先ほど「施設管理者等のヒアリング」というご説明、これが例えば図書室であれば、司書の先生からお話を聞くなどという意味ですか。
設計事業者	学校さんによっていろいろありますが、ここに書いてある施設管理者の方ということで私どもは聞いていますが、もっと実際の先生方にヒアリングすべきというご指示があれば対応しようと思います。
委員	先生でないとしたら、施設管理者というのはどなたが想定ですか。区の方ですか。
設計事業者	校長先生などです。
学校整備課長	いわゆる学校関係者のイメージで、校長、副校長にまず。
委員	<p>新しい学校が何校かできていますよね。そういうところの司書の方は実際に使い勝手がわかっていらっしゃるの、富士見丘小と富士見丘中の先生だけではなく、もう使っている学校の司書の方からお話を聞くのが一番有益なアドバイスをいただけるのではないかと思います。</p> <p>ぜひ、この「施設管理者等へのヒアリング」というところで、新しくなればなるほど皆さんの知見が高まっていいものになって、また同じにやってしまったとにならないように、ちゃんと必要な方には聞いていただきたいと思います。</p>
学校整備課長	<p>今、平田委員がおっしゃったのはごもっともな点があります。ほかの学校でも、実は同じように使い勝手などをいろいろな先生がいろいろな意見を持っていますというのがあって、人によって違います。</p> <p>ある先生は「こういうほうがいいのだ」という意見を出しますが、ある先生は「そうではなく、こっちのほうがいいのだ」ともめて、一体どっちの言うことを聞いたらいいのかというのがあるので、我々としてはいろいろな人の意見を聞いて、ぜひ取り入れたいというのがありますが、その交通整理を例えば校長、副校長を通じて学校の意見としてこういうものをというイメージだったので、どうの方が参加するかについては細かく学校側と詰めたと思います。</p>
進行役	そのほか、いかがでしょう。
委員	以前もお話ししたことがあると思いますが、一番の当事者は子どもたちです。先ほど高見澤先生もおっしゃいましたが、建築計画に子どもたちがかわるのは

	<p>難しいにしても、子どもたちも、「実はこの学校に自分たちがいろいろアイデアを出したんだ」みたいなのは結構格好いいではないですか。やはり子どもたちはうれいしいですよ。</p> <p>先ほど、自分たちは学ばなかったけれども建ててくれてありがとうと言ってくれた。そういう子どもたち、富士見丘中学校、「実は俺たちがアイデアを出したんだ」みたいなことが言える学校というのはいいと思う。</p> <p>今、自分はCSの委員をずっとやっていますが、学校の中に第三者が入るといのは当たり前前の時代になっている。もちろんそれは大切だが、自分は第三者の中に子どもも入るべきだといつも思っています。</p> <p>学校をつくっていく、大人と子どもの別はあれども、子どものアイデアは無限ではないですか。大人になるとそれが1つ1つ剥がされていきますが、子どものときのアイデアは、大人から見たらばかばかしいアイデアかもしれないけれども、その中に光るものを見つけるのが大人ではないかと思ひます。</p> <p>だから、学校で集約するのもいいですが、どこかで子どもたちの意見を、聞く機会などを設けていただければと思ひますが、いかがでしょう。</p>
学校整備担当部長	<p>ごもつともな意見だと思ひます。特に中学生ぐらいだと、こういうのを見せればわかりますし、そういった意味ではどういふ形で意見集約するかということも含めて、さっき高見澤先生からもご指摘がありましたから、まず学校と調整して決めていきたいと思ひます。ありがとうございました。</p>
進行役	<p>いかがでしょう。よろしいですか。</p> <p>では、これで議事は終了となりますので、閉会の前に事務局から連絡事項についてお願いいたします。</p>
教育施設計画推進担当係長	<p>本日もたくさんご意見をいただきましてどうもありがとうございました。本日の会議録につきましては、前回までと同様にでき次第送らせていただきますので、ご確認をよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>次回については、先ほどご説明申し上げましたとおり基本設計がある程度進んだ9月ごろの開催を予定しておりますので、また引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>それから本日会場には、今回ご紹介した山下設計さんによる企画提案のほか4社の方々にご協力いただきまして企画提案をご展示してございますので、ご自由にご覧になっていただければと、ぜひよろしくお願ひいたします。</p> <p>ただ、この後学校で体育館を使う予定もござひますので、3時30分ぐらいには撤収したいと思ひます。限られた時間ではござひますが、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>私からは以上でござひます。</p>
進行役	<p>それでは、これで第8回懇談会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>